

移動等円滑化取組計画書

令和元年12月26日

住 所 千葉県千葉市稲毛区萩台町199番地1

事業者名 千葉都市モノレール株式会社

代表者名（役職名及び氏名） 代表取締役社長 川上 千里

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律第9条の4の規定に基づき、次のとおり提出します。

I 現状の課題及び中期的な対応方針

(1) 旅客施設及び車両等の整備に関する事項

千葉市との協議により、旅客が安全にモノレールに乗降するための駅インフラ設備として、利用者の最も多い千葉駅ホーム4面にホーム柵を設置する。

駅旅客トイレについて、バリアフリー法に基づき車いす利用者をはじめ誰もが利用できるようバリアフリーやユニバーサルデザインの観点を取り入れ整備を進める。

また、老朽化した車両をバリアフリー化された0形車両に順次更新し、2028年度までに全ての車両を置き換える。

(2) 旅客支援、情報提供、教育訓練等に関する事項

- ① 約8割が無人駅であることから、事前連絡または駅に設けたインターホンから乗降補助の連絡があれば、近隣の駅などから社員を向かわせ対応することを徹底する。声掛け・助け合いポスターの掲出や全車両にヘルプマークを貼付し、普及啓発に努める。
- ② 駅舎内に設置しているインターホンの使用について、「緊急時の連絡用」の表示から「乗車案内にも利用できる」表示内容に見直し、併せてウェブサイトや駅広告で周知する。
- ③ 乗降補助の連絡を受けた際、駅係員が適切に対応できるよう社内研修を実施する。
- ④ 社会の多様なニーズに応えるため、高齢者や障害者等への理解を深め、駅利用や車両乗降の際には、年齢や障害の有無を超えたおもてなしを提供できるように、2024年度までに駅係員と運転士全員がサービス介助士資格を取得する。

II 移動等円滑化に関する措置

① 旅客施設及び車両等を公共交通移動等円滑化基準に適合させるために必要な措置

対象となる旅客施設及び車両等	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
ホーム柵の設置	・視覚障害者、高齢者等全てのお客様が安全にご利用頂けるよう千葉駅ホーム4線にホーム柵を設置する。(2019年度)
駅トイレのバリアフリー化	・駅トイレについて以下の駅をバリアフリー改修する。 千城台駅・・・(2019年度)
車両の更新	・ユニバーサルデザインを用いたバリアフリーに対応した新型車両を導入する。

② 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる乗降についての介助、旅客施設における誘導その他の支援

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
乗降介助	・無人駅における対応として、運転士は、車いす利用の旅客への乗降介助を実施する。(2019年度)
ホームにおける降車時誘導案内	・車椅子利用の旅客、視覚障害者及び乗降介助が必要な旅客等については、エレベーターまでの介助誘導を実施する。(2019年度)
乗降補助サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・無人駅に「声掛け・助け合いのポスター」を掲示して乗客同士による助け合い等について普及啓発を図る。 ・無人駅であってもあらかじめ事前連絡を受けることで、乗降補助サービスが可能であることをホームページ等で周知する。
人員配置の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・駅インターホンから乗降補助の連絡を受けた場合は、有人駅や本社(以下、「最寄り駅等」という)から駅係員等が対応できるよう体制づくりを図る。(2019年度)
車いす利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・朝ラッシュ時の無人駅(作草部駅)における旅客の乗車支援として、その時間帯は確実に対応ができるよう、駅係員を配置する。(2019年度)
車いす利用者	・幅広改札機が設置されていない駅から乗降する場合は、事前連

の介助	絡または駅インターホンで依頼を受ければ、最寄り駅等から社員が介助に駆けつけることを徹底する。(2019年度)
筆談器の配備	・千葉みなと駅、千葉駅、都賀駅、千城台駅に筆談器を配備する。(2019年度)
障害者の接遇に関する民間資格を持つ職員の配置	・2020年度までに全駅係員にサービス介助士の資格を取得させる。(2019年度～2020年度)

③ 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる情報の提供

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
乗降補助サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・乗降補助サービスの実施にあたり、事前連絡するための連絡先及び駅インターホンの活用について、ウェブサイトや駅で広告することにより、取り組みの周知を行う。(2019年度) ・無人駅改札口に車イス乗降のためのスロープ補助に関する連絡方法を広告することにより周知を図る。(2019年度) ・無人駅をはじめ全駅へ転落防止のための放送を社員が録音し音声により繰り返し放送する。(2019年度)

④ 移動等円滑化を図るために必要な教育訓練

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
障害者の接遇に関する民間資格の取得促進	・サービス介助士の資格取得及び資格更新に係る経費を会社負担とし資格取得の促進を図る。まずは、全駅係員と全運転士がサービス介助士を取得することを目標とする。
定例訓練の実施	・車イスや高齢者、視覚障害者の疑似体験型訓練を実施する。 また、携帯電話等の電波によるペースメーカーへの影響について学習し、注意喚起等に活用する。(2019年度)
小集団活動による対応方研究	・社内的小集団活動にて「介助を必要とされている方」への対応向上について研究する。(2019年度)

講習会への参加	・民間企業主催の盲導犬講習会に参加し、盲導犬に関する知識を習得する。(2019年度)
ガイドヘルパー養成研修の受入	・当社の駅・列車をガイドヘルパー養成研修の実施場所として提供し、課題等の情報共有を図る。(2019年度)

III 移動等円滑化の促進のためIIと併せて講ずべき措置

<p>・千葉駅等を含む中心市街地の移動等円滑化については、千葉市が基本構想を作成中である。当社も協議会に参加し必要な協力を行う。</p> <p>※千葉駅等とは、千葉駅のほか千葉みなと、市役所前、都賀、スポーツセンター、千城台駅を示す。</p> <p>・千葉市が基本構想の策定過程において実施した基礎調査（地域懇談会、まち歩き点検ワークショップ）における障害当事者の意見を参考とし、特に重要な案件については、状況の確認を行い業務連絡会議等で共有する。</p>
--

IV 前年度計画書からの変更内容

対象となる旅客施設及び車両等又は対策	変更内容	理由

V その他計画に関連する事項

<p>中期的な対応方針に記載された事項については、当社の企業理念・行動指針に基づくものであり、具体策については中期経営計画に位置づけられている。</p>
--

注1 IVには、IIについて前年度と比較して記入すること。なお、該当する対策が複数になる場合には、新たに欄を設けて記入すること。

2 Vには、IIの欄に記入した計画に関連する計画（事業者全体に関連するプロジェクト、経営計画等）がある場合には、必要に応じ、その計画内容及び計画における当該事業者の位置付け等について記入すること。